

8つのアート1つのハート

日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学院 芸術学 研究科 ◆

◇ 博士前期課程 / 文芸学専攻 / 映像芸術専攻 / 造形芸術専攻 / 音楽芸術専攻 / 舞台芸術専攻

◇ 博士後期課程 / 芸術専攻

熱気・やる気・元気



江古田校舎

OPEN CAMPUS

6.25 予約不要・入退場自由
[日] 10:00~16:00

学部全体説明会 / 模擬授業 /
ワークショップ / 個別進学相談コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします



所沢校舎

進学フェア

5.27 予約不要・入退場自由
[土] 10:00~16:00

個別進学相談コーナー / ビデオ上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします



江古田校舎

入試博覧会

3.18 予約不要・入退場自由
[日] 10:00~16:00

学科別親と子の進学相談 / ビデオ上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
日誌の卒博を実施していますので、
学生のパフォーマンスやキャンパスの雰囲気もご覧いただけます



江古田校舎

入試相談会

11.3 [金/祝]・5 [日]
10:00~16:00 予約不要・入退場自由

個別進学相談コーナー / ビデオ上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
11月1~3日に芸術学部祭を実施していますので、学生主催の
イベントやキャンパスの雰囲気もご覧いただけます

8つのアート1つのハート

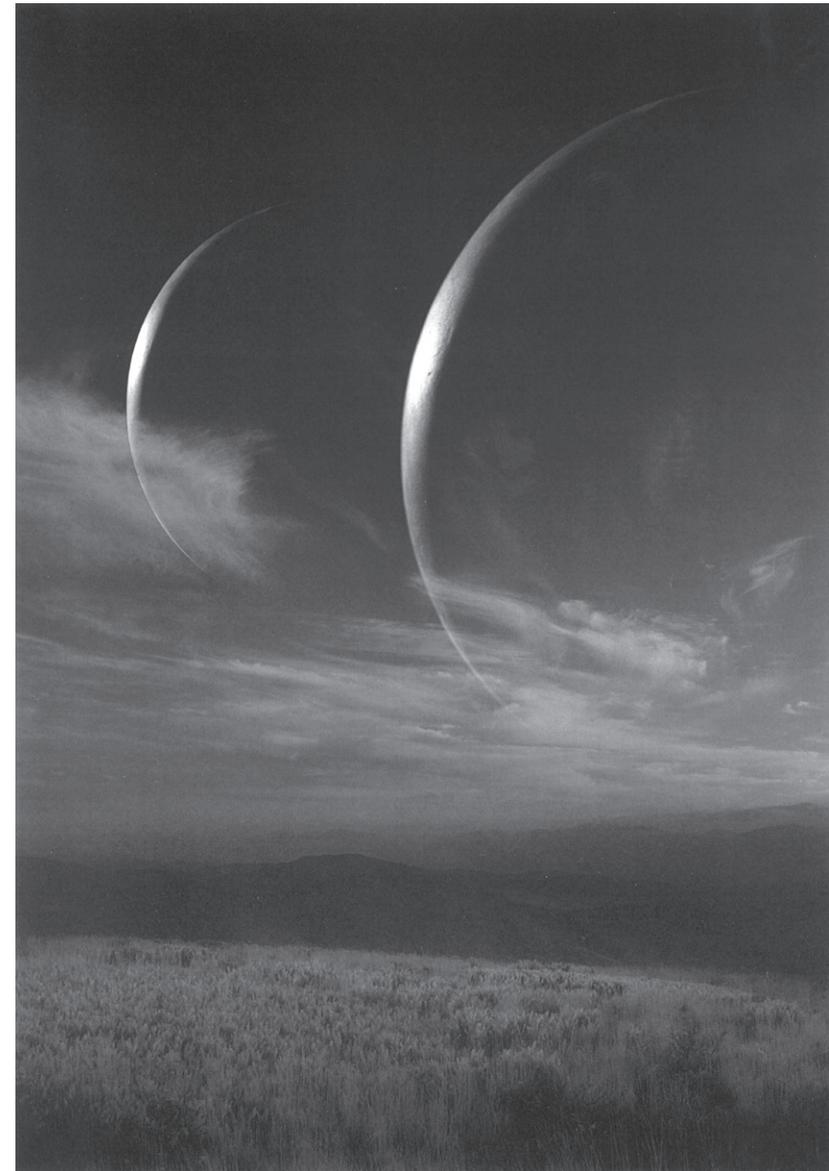


日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南4-21 TEL.04-2993-2212

日本大学藝術学部



校友会報

平成29年5月発行
2017年春季号

98

C O N T E N T S

平成 29 年度総会のご案内……………2	青森江古田会総会…………… 11
第 11 回日藝賞決定……………3	秋田江古田会総会…………… 11
皆さん今日は！……………5	中国江古田会総会…………… 12
日藝の卒博開催……………9	江古田会各支部連絡表…………… 12
新潟江古田会総会…………… 10	学部ニュース…………… 13
岩手江古田会総会…………… 10	学科ニュース…………… 13～19
台湾江古田会総会…………… 10	編集後記…………… 19

INFORMATION

久しぶりに
行ってみよう！

2017. **7.1** [土]
午後5:00

平成29年度

総会のご案内



懇親会
楽しそう！

総会終了後、
ただちに懇親会に
移ります。

懐かしい友達に
会えるかも…

参加して
みようかな

ご出席の
はがきを是非
お出しください。

場所 日本大学芸術学部内
TEL. **03-3554-5363**
※当日、正門にてご案内致します。

議題 1. 会務報告 2. 会計報告 3. 予算審議
4. 推薦校友 5. 役員改選 6. その他

会費 喜寿を越えられた卒業生…… ご招待
それ以外の卒業生…………… 3,000円

第11回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第11回受賞者が決定し、4月4日の入学歓迎式において授賞式が行われました。



小山 薫堂氏



三宅 由佳莉氏

第11回「日藝賞」受賞者について



小山 薫堂

1964年 熊本県生まれ。日本大学芸術学部在学中に放送作家として活動を開始し、数多くの番組を企画・構成。『料理の鉄人』『トリセツ』では、国際エミー賞を受賞。さらに脚本を手掛けた映画『おくりびと』で2009年に第81回米アカデミー賞外国語映画賞を受賞し、国内外で高い評価を受けた。エッセイ連載、作詞など幅広く活動する他、下鴨茶寮主人、京都館館長、文化庁「日本遺産審査委員会」委員など、多くの政府・地域・企業のアドバイザーなどを務める。また、熊本県地域プロジェクトアドバイザーを務め、人気キャラクターくまモンの生みの親でもある。



3等海曹 三宅 由佳莉 (ソプラノ)

岡山県立岡山城東高等学校普通科音楽系、日本大学芸術学部音楽学科声楽コース卒業。声楽を渡邊馨氏、山田美保子氏に師事。2009年4月、海上自衛隊に入隊。同年9月、東京音楽隊にヴォーカリストとして配属。ジャンルにとらわれないその歌声は、多くの支持を集めている。なかでも東京音楽隊オリジナル作品を中心とした「歌と吹奏楽」という新たなスタイルへの取組みは多方面から高評を得ており、テレビやラジオ等にも活躍の場を広げている。これまでにパリ・ギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団(パリ共和国親衛隊音楽隊)、仙台フィルハーモニー管弦楽団、と共演。岡山県出身。

皆さん今日は!

●金井 めい子 (写真学科卒)

初めて触る銀塩写真はすごく難しく、不器用な私は何度もリール巻で失敗していました。しかし、今思えば、あの初めての経験がとても楽しくて課題に追われながらもすごく充実した日々を過ごしていたと思います。3年に上がる頃には、ずっと撮りたかったダンサーの撮影も多くなり、自分の撮りたいものが何なのか、自分らしい写真が具体的にあって、写真の話で友達と盛り上がったり、真剣な話をしたり、1、2年の時とはまた違った刺激の多い日々を過ごしていました。日藝で良かったと思うことは、日々刺激が多いということ。先生だけではなく、友達同士でも意見をはっきり言い合い、お互いに高めあっていくこと。当たり前と思うことかもしれませんが、正直なかなかできないことだと思います。お互いが写真のライバルであるからこそ、高め合うことができたのだと思います。この大学4年間、たくさんの人に支えていただいたおかげで、私は春からスタジオマンとして、これからも写真の道に進むことになりました。これからも日藝で学んだことを忘れずに、頑張りたいと思います。



●高岡 辰伍 (写真学科卒)

高校に入学し、部員2人の写真部に入部した。そこから私の写真が始まりました。卒業後も写真を続けたい、もっと学びたいと思い、4年間じっくり写真を学べるこの日本大学芸術学部写真学科を選びました。1・2年生は所沢



校舎での黑白フィルムの基礎知識を、3年生からは設備が整った江古田校舎に移り専門的な機材を使った実習と、聴くことを見ること知らないことばかりで毎日の授業がとても楽しかったです。授業以外ではサークル活動として学園祭実行委員会に在籍し、3年生のときに代表を務めさせていただきました。この芸術学部には8つのアートがあり、それぞれの個性を生かした展示や公演が見られるのが日芸の芸術祭です。そんなイベントを運営できたことは素晴らしい経験でした。写真学科の授業や課題との両立はとても大変でしたが、学科や委員会の仲間を支えられ学園祭3日間で3万4千人を超える来場者を迎えることができました。卒業後もカメラマンとして写真のお仕事ができそうです。日芸で経験したこと、学んだことを生かして頑張ります。

●薄井 崇人 (映画学科卒)

期待を胸に膨らませた大学1年生の時、私は希望と不安でいっぱいでした。映画という普通では習えないことを4年間学べるという期待と、おかしな人たちや見たこともない機材に囲まれて、これから自分はどこに向かうのかという不安。そんなワンダーランドで過ごした4年間はあっという間に過ぎ去っていきました。非常に充実した、いい思い出も苦い思い出もたくさん詰まった4年間でした。撮影・録音コースで学びフィルムからデジタルまで幅広い知識を身につけ、先輩から誘っていただいた商業映画からPVまで幅広い撮影や照明の現場を知ることができ、貴重な経験を積むことができました。課題で撮影した3年実習作品や卒業制作は波乱万丈の連続でしたが、制作



本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

の中で自らが作る作品と向き合い、精一杯頑張りました。春からはNHKに入局しニュース映像の編集を行います。4年前と同じく、希望と不安でいっぱいですが、しかし日芸での4年間で学んだことを活かし、これからも日々精進して日芸の名に恥じないクリエイターになっていきたいと思っています。

●三上 有理 (映画学科卒)

小学生の頃にテレビで放送していた映画を観てから私は映画に興味を持ち、中学に通っている時に日芸のことを知って受験をしようと思いました。入学して専門的な知識や技術に触れながら制作の実習を経て、それまで私にとって観て楽しむだけのものだった映画が自分たちで作るものになり、新しい視点から映画を観ることができるようになりました。映画について知っていく程楽しくなると同時に、映画を作る上での苦労や難しさも覚え、時には映画から離れて他のことに熱中する機会も増えていきましたが、他のことをして得たことも自分の制作や作品を観る上での糧となり、視野も広がったと思います。在学中は決して真面目とは言えず、投げやりになってしまうこともありましたが、卒業を前に改めて考えるとやはり自分は映画が好きで、日芸で映画を学べたことをとても嬉しく思います。映像制作を通してできた友人や、お世話になった先生方に巡り会えたことも私にとって大きな財産です。卒業後も自分なりに映画と向き合いながら過ごしていきたいと思っています。上手くいったことも失敗してしまいましたが、それら全てを含めて楽しい大学生活でした。



●松澤 綾 (美術学科卒)

私は、東京都内の私立大学に二年間在籍したのち、二年次編入の試験を受け日芸に入学しました。日芸で過ごした三年間は、つらい事や苦しい事もありましたがそれ以上に得られる事や実りの多い、充実した三年間であったと感じています。美術学科は三年次に絵画コースと版画コースに分かれるのですが、より多くの美術の表現や技法を学びたいと思い、版画コースを選びました。版画は非常に繊細で、少しの間違いが完成に大きく影響を与えることもあります。思い通りにいかず悔しい思いをする事も多々ありましたが、その分次の制作に向けた自分の課題をはっきりと自覚することができ、作品に対して真剣な気持ちで向き合うことができたと思っています。4月からは、他大学の大学院に進み版画の勉強を続けていく予定です。己の現状に満足せず、日芸で培った探求心を持ち続けて今後の制作に活かしていきたいです。優しく、時にきびしく指導して下さい、版画の楽しさを教えて下さった先生方を、私は一生忘れません。いつか先生方と同じ土俵に上げられるよう、これからも精進します。



描くことの本当の楽しさを知りました。私はこれまで画法や表面的な技量に目を向けてきましたが、作品のもつ意味や自分の表現したいこと、モチーフと向き合うことなど作品の内面を知ることが大切であると学びました。ただ絵を描くだけではなく、物事を追求することが表現のリアリティに繋がるのではないのでしょうか。知識が増えることで一つのものを多角的にとらえ、制作や鑑賞の楽しみをより感じることができました。この4年間で関わってきた多くの学生や、先生方のおかげで成長することができ、感謝しています。今では、さらに芸術について研究したいと思うようになり、大学院に進むことを決めました。見る人を感動させられるような作品を作っていきたいです。

●後藤 美咲 (音楽学科卒)

日芸の魅力は、幅広い様々な視野から芸術に触れられる環境だと思います。音楽以外のことも学びたいと思い、日芸に入学しました。私は、幼い頃から趣味でピアノを始め、大学で本格的に学びました。周りの友達と高め合いながら自分の技術を磨き、ピアノ以外にも、声楽や尺八、箏、オルガン、チェンバロのレッスンを受け、とても楽しく充実した4年間でした。大学に入ってから、もっとたくさんを知りたい、学びたい、という意欲が強くなりました。譜読みや練習に追われたり、教職の模擬授業の準備で大変な時もありましたが、どれも自分の力になると信じて頑張りました。日芸には、個性豊かな人たちがたくさんいます。色々な人がいて、色々な考え方があり、それが個性で輝やかせることができるところが日芸である、と強く実感しました。私は、4月から小中学校の教員になり



ます。中学生の頃から思い描いていた夢を実現することができたのは、同じ目標に向かって一緒に頑張っていた友達のおかげです。まだまだ未熟な部分はたくさんありますが、子供たちに音楽の楽しさを伝え、自らも学び続けることを忘れずに、常に新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

●長谷川 喜春 (音楽学科卒)

地元を離れ東京で過ごしていく中で、たくさんの友人や先輩、恩師の先生方に出会えたことに感謝しています。入学したての頃はまだ、自分がなになにになりたいのか明確でなく、日々を生きることで精一杯でしたが、授業やレッスンを受け、周りと関わっていくうちにしっかり目標ができました。日芸に入り、先生に恵まれてオーボエがもっと好きになりました。日芸の良いところは講師陣がとて素晴らしい先生ばかりで、豪華なことだと思います。そんな素晴らしい演奏家である先生方や先輩たちに強いあこがれを持ち、必死になって練習してきました。その成果あって第120回定期演奏会にソリストとしてオーケストラと共演させていただきました。大好きな曲をオケと演奏できたこの経験は、私の人生の中でもっとも忘れられない出来事になりました。純粋に「楽しい」という感情だけで音楽をすることはできなくなってしまいましたが、私なりの音楽を表現していく為にこれからも学び続けようと思います。4月からは陸上自衛隊音楽隊に勤務します。プロとしての自覚を持ち精進していきたいと思っています。また、4年間学ばせてくれた母にはとても感謝しています。これからは親孝行をたくさんしたいと思っています。



●天羽 夏帆 (文芸学科卒)

「君は結局、絵を諦め切れなんだね」と入試の面接で教授に言われ、狐につままれたような気がしたことを今でもよく覚えています。私は面接官である教授に、なぜ六年間学んでいた絵の道を諦め文芸学科を志望するに至ったのかを、詳しく語ったつもりだったためです。思えば初めから、私のひねくれた心は見透かされていたのかもしれませんが。中学高校時代、絵を描く度に、上には上がいることを思い知らされました。私はいつも、自分よりも絵が上手い友人を気にしながら筆を動かしていたのです。しかし、文芸学科で過ごした四年間、私はその漠然とした劣等感を忘れていました。やっと分かったことは、自分が書く文章は自分にしか書けないものだという、ごく当たり前のことです。それを心の底から理解出来た時、また絵を描きたいと思いました。そして、過去に入試で言われたことを反芻し、本当にその通りだったと今更ながら納得しました。最近、教授に「君は自分の人生を切り取り、スケッチをするように生きている」と言われ嬉しく感じましたが、この他にも日芸で大切な言葉をたくさん得ました。それらがある限り、私がこの先何かを諦めることはもう二度とないと思います。



●荒川 正志 (文芸学科卒)

終電まで哲学論争、明け方まで友人宅でアニメぶっ通し、ベッドの上で7時間通話。文芸学科で誰よりも本を読んでこなかった私は、誰よりも友人とおしゃべりをしてきました。私の友人は自慢したくなるほど魅力的な人ばかりです。小説も詩もマンガも“好き”だけで終わらせず、自分の作品を



良くするためのヒントとして吸収していました。そんな彼らのおしゃべりは愉快かつ濃厚。3分に一回は笑っていたと思います。また友人宅でアニメや映画の上映会をし、語り合うこともありました。膨大な知識の下支えによって繰り上げられる独特な思想、着眼点は私にとっていい刺激になりました。おかげで様々な作品に興味を持ってましたし、考え方を広げることができたと感じています。この4年間、多くの友人・先生方に支えられてきました。ジャンルを超えて意見をぶつけ合ったゼミ、一人でも多くの人に読んでもらおうと奮闘した芸祭、赤裸々に語り合ったオールなどなど。もちろんその分迷惑もかけてきました。なので今後は私が、お世話になった方々の自慢になれるよう努めていきたいと思っています。

●梶原 優 (演劇学科卒)

日芸に入りたいと思ったのは中学2年生の時でした。演劇ぶっくという雑誌に、日芸の入学募集の広告が掲載されており、見た瞬間にビビッと惹かれた感覚を今でも覚えています。私は企画制作コースに入学しました。そこは「企画」をし続けるコースだけではなく、それ以上に「制作」という役者やスタッフを影から支える役職を学ぶコースでした。具体的には予算管理からチケット販売、稽古場取ったり、宣伝、その他にも公演当日にお客様のご案内などをします。最初は何をやるかも分からなかったものの、制作をすればするほど奥深い仕事でした。日芸の4年間で「企画と制作」を学んだことで、私はやってみたい!という職業に出会うことができました。そんな私の日芸ライフはまさに「人とのつながり」の大切さを実感する毎日でした。先生、先輩方、同期、後輩に支えられ、助けてもらいながら過ごした日芸の日々は宝物です。しょうもないことで大



笑いしたり、喜んだり、時には意見が違ってぶつかったりしたことも大切な経験です。卒業を目前にした今、私は中学2年生の自分に大声で「日芸に来て良かったよ! 広告見つけてくれてありがとう!」と呼びかけながら、これからも演劇と共に生きていきたいと思っています。

●土橋 竜太 (演劇学科卒)

正直なところ、高校3年生になるまで日芸の存在を知りませんでした。自分の将来に対してほとんど何も、漠然とすら考えていないダメな高校生だったと思います。しかし、いざ自分の進路を決めなければいけないとなった時、当時演劇部の活動に夢中になっており、「今自分が一番楽しいと思うことをやりたい」という何とも単純な志望動機が生まれ、演劇ができる大学を探していました。そんな時、高校の一つ上の先輩が演劇学科に入学していたので芸術祭に連れていってもらえました。その時に見た光景は今でも忘れられません。学生の生き生きとした顔、空気。すべてが魅力的に見え、その場で進路はこしかないと決め、幸運なことに入学できました。入学してからは、高校生気分のままのちゃらんぼらん私を先生方や、同期、先輩からたくさんの叱咤激励で大きく成長させてもらい、年齢など関係なく良きライバルとして4年間の学生生活を送れました。未熟な私を広い心で受け入れてくれた学校や先生方には本当に感謝しています。毎日を刺激的なものにしてくれた友人たちにも感謝しています。そして何より、応援してくれている親には頭が上がりません。これからまた、私は相変わず「自分が楽しいと思うこと」を追求するために社会に出ます。家族以外にも、そんな私を励ましてくれる日芸、友人たちはこの学校で得たかけがえのない存在です。



新潟江古田会総会

9月3日(土) 於: ANA クラウンプラザホテル新潟

新潟江古田会平成28年度総会は、新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で会員10名の参加で開催されました。芸術学部次長であり校友会常任幹事である木村政司教授のご出席を賜り、芸術学部の現在の状況やこれからのことについてお話を伺うことができました。続いての懇親会では遅

くまで芸術談義で盛り上がり、さすが日大芸術学部同窓会という雰囲気です。青春時代に戻った感がありました。新潟県内には100名余の卒業生がいるはずですがなかなか連絡が取れず、現在に至っています。これからもできるだけ多くの卒業生が参加されるよう努めてゆくとともに、

会長 増井 伸一



10月22日(土) 於: 公会堂多賀

の津波同様の被害が生じました。懇親会の席上で義援金のザルを廻すと有難い事に金五万円となり、その場で藤原君に國分会長から手渡されました。会員各位それぞれの心に沁み第12回江古田会となりました。

事務局長 佐藤 剛



岩手江古田会総会

平成28年10月22日盛岡市の公会堂多賀で第12回岩手江古田会が開催されました。綾部東洋子校友会会長、野田慶人芸術学部長、宮城江古田会から桑折洋一会長の御臨席の下、岩手江古田会から10名、合計13名での開催となりました。当日は全国身障者スポーツ大会・希望郷岩手大会開会の日という事で宿泊先の確保が難しく少ない人数での開催となりましたが、その分、内容は濃くなりました。総会(事業報告決算予算等)はあっという間に終了し、即、懇親会となりました。岩手江古田会では毎回会場と料理に

趣向を凝らすのをモットーとしております。今回は前回の平民宰相原敬ゆかりの料亭から1930年代に国際連盟副事務総長はじめ様々な場面で活躍した郷土の大先達新渡戸稲造先生ゆかりのレストランが会場でした。上田輝仁会員の縁故で1927年に出来た建物内の開館当初から営業を続けているお店の雰囲気は重厚かつ料理も懐かしきフレンチであり、桑折さんの乾杯で始まったディナーをワインと共に堪能させて頂きました。本年8月末に岩手を襲った台風10号は藤原亮平会員の住む岩泉町を直撃し3・11

台湾江古田会総会

平成28年11月20日(日)、日本大学芸術学部台湾江古田校友会28年度総会が台湾台北市《歐華酒店》にて開催されました。日本から来賓として野田慶人学部長及び原直久校友会副会長がご出席され、また27名の日本大学台湾校友会及び江古田校友会の方々にもご参加頂きました。総会は台湾江古田校友会黄会長からのご挨拶から始まり、野田学部長及び原直久副会長のご挨拶、そして最後に会員が一人ずつ近況を語りました。また、原教授が定年退職されるということで、林舜龍氏が制作した引退記念の彫刻を贈呈致しました。長い期間、原教授には大変お世話になりました。有難うございました。

記念品贈呈後、各会員の近況報告や創作活動についての報告を聞きながら、楽しい一日を過ごしました。近年、台湾の大学生の日本大学院への留学傾向がますます強くなってきました。今後、台湾江古田会でも母



11月20日(日) 於: 歐華酒店

校の進学情報や活動内容などを台湾の学生に提供できるよう努めて参りたいと思います。

支部長 黄 鈞

青森江古田会総会

11月26日(土) 於: アップルパレス青森

北国青森の初冬は、大体どんよりとした曇り空で、時折、霽ともつかない氷雨に見舞われる毎日です。それ故、本当に気が滅入り体調も良くない日が続きます。が、去る11月26日は久々の好天に恵まれ暖かく、気分・体調共に爽快のコンディション!この佳き日に日本大学芸術学部青森県支部の平成28年度総会が開かれました。午後6時に始まった総会には新参加者も含め、支部会員12人が集い、本日の議長、大山禮示幹事(演33年卒)の司会で始まり、先ず高木保支部長(演32年卒)による開会の挨拶。続いて高坂進事務局長(写41年卒)が、平成27年度の活動経過と会計報告を行いました。7月に27年度県支部総会開催。また、同月、県支部会報『にちげい青森』第10号の発刊。12月には第10回日藝賞候補者投票。平成28年1月、全国支部長会議に高木保支部長が出席し、同日開催の新年顔合わせ会には、在京の大山禮示、豊島紘武両会員と共に出席し、親睦を深めたこと。平成

28年2月には、『にちげい青森』第11号を発刊した等の報告をしました。この活動経過報告の途中、本日のご来賓である日本大学芸術学部校友会副会長、田上竣詞様が到着。長旅の疲れも見せず元気にご挨拶を賜りました。この後、平成27年度の会計報告があり、鈴木義勝監査委員(美50年卒)による会計報告で総会を閉じました。引き続き本日参会記念の写真撮影が行われ、いよいよお待ちかねの懇親会!柴田園子会員(演H8年卒)進行の名調子、式第のレジュメも何のその!型破りの司会で超和気あいのスタートとなりました。乾杯から進んで自己紹介では、初参加の坂口千夏さん(放H10卒)がトップバッター。初出席、田中宏会員(放43卒)、この辺りようやく向中野光秀幹事(美45入)による開会の挨拶となりましたが“まーいいでしょう!”後に続く大河原儀明会員(放53卒)、能代一雄会員(写46卒)などの3分スピーチで一段落!恒例のお楽しみプレゼン

トが高木保、柴田園子の両名ウィットに富んだ進行、会員の特別提供品が全員に行き当たりました。懇親会の皮切りにいきなり指名されて乾杯の発声をした和田光弘幹事提供の『青森ねぶた』の写真集は、当たった人からの厚意で田上副会長に差し上げられ、当選者には和田光弘幹事が改めて届けることとなりました。中締めは小生、副支部長上崎正(写38卒)の一本締め!会員の益々の健勝と日本大学芸術学部校友会の弥栄を祈念して閉会となりました。

副支部長 上崎 正



秋田江古田会総会

3月4日(土) 於: カフェ・ブルージュ

平成29年3月4日(土) 15時から秋田市のカフェ・ブルージュにおいて第10回秋田江古田会総会、及び創立10周年記念行事が開催されました。通常は10月に開催されておりましたが今回は創立10周年記念行事も併せて二本立てで開催するということになり、行事の企画、計画などに時間がかかってしまい、この時期の開催になってしまいました。記念行事には、会員の絵画や写真を会場に展示し、又、演劇学科卒業で活躍している女優、浅利香津代氏による講演、さらに2015年に音楽学科情報音楽コース卒業でハワイのグラミー賞といわれるナ・ホク・ハノハノアワードで最優秀インターナショナルアルバム賞を受賞した国内屈指の名ウクレレ奏者の名渡山遼氏の演

奏を盛り込むことを決めました。さて秋田江古田会の総会には学部長の野田慶人様、校友会長の綾部東洋子様、そして宮城支部長の國分一彦様、岩手支部長の桑折洋一様、ゲスト出演の名渡山遼様のご来賓のご臨席を賜りました。会員の参加は9名で、ご来賓の簡単な自己紹介の後、藤澤支部長の進行により議事がスムーズに進められました。総会后、同会場で懇親会が開催され、初めに参加者全員による日本大学校歌が高らかに歌われ、その後は和気あいあいと語り合いました。今回で学部長と校友会会長はご退任になるということで大変名残惜しく感じました。18時から10周年行事の開催ということで一般のウクレレファンなどの

お客様もご案内して総勢約40名により開催されました。始めの浅利氏の講演では大変興味深く話に引き込まれました。続いて名渡山氏のウクレレ演奏が始まりました。初めはゆったりした曲に始まり聴衆にウクレレのサウンドを堪能させ、だんだんテンポの速い超絶技巧の「ミリオン・ミリオン」などの曲が演奏され聴衆はすっかり引き込まれました。



演奏は2部構成でウクレレソロの後はピアノとドラムが加わって、さらに奥行きのある名演が繰り返されました。終演後会場からは感動で、鳴りやまない拍手が続きました。今回の総会、10周年記念行事を無

事に盛大に終わることができ、ご参加ご協力くださった皆様に深く感謝いたします。特に秋田江古田会のために駆け付けて下さった同じ東北地区の國分宮城支部長、桑折岩手支部長には深く感謝申し上げます。今後の東北

の連携をさらに深めていけることをご期待いたします。また野田学部長、綾部校友会長の今後の更なるご健康、ご多幸をご祈念申し上げます。

事務局長 仙北屋 昭弘

中国江古田会総会

平成29年3月18日、中国北京の天安門近くに位置する長富宮ホテルのレストランで、中国江古田会総会が開催されました。日本から野田慶人芸術学部長と田上竣詞芸術学部校友会副会長にご出席いただき、中国上海、北京にてそれぞれ日本の報道機関および日本企業、そして中国の多分野で活躍している日中卒業生15名が集まり、盛大な会になりました。

はじめに、中国江古田会総会は三年前の上海における結成以来、今回北京で改選を行い、中国江古田会馮建国会長、張辰副会長、王克力幹事長という校友会新役員会を選出しました。そし

て全員一致でこれから二年ごとに選挙を通して執行部メンバーを更新することになりました。また、これから毎年三月の第三土曜日に上海と北京それぞれ交替で中国江古田会総会を開催することに決めました。

懇親会では、野田慶人芸術学部長が総会の成功に祝辞を述べ、また日本大学芸術学部の近況および今後の展望についてご紹介されました。また田上竣詞芸術学部校友会副会長からも校友会およびこれからの江古田会の活動について紹介がありました。諸先輩後輩たちもそれぞれの仕事と活躍ぶりを報告し、日本大学芸術学

3月18日(土) 於：長富宮ホテル

部の学生生活を偲んで、総会は和気あいあいのうちに閉幕しました。

幹事長 王 克力



江古田会各支部連絡表

支部名	名前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇 53 年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	三浦 博之	放送 49 年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇 H9 年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画 40 年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真 43 年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

昨年度は、愛知江古田会も設立されました。

学部ニュース

去る3月25日に平成28年度卒業式が挙行されました。日本大学学長賞・優等賞・優秀賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表及び表彰がありました。

●日本大学学長賞(学業部門)

○写真学科 渡部直樹

●日本大学優等賞(学業部門)

○写真学科 李 ナラ 富永涼太郎
外川雄貴

○映画学科 井沢佳世 木村和豊
丸山雄也 篠原任成

○美術学科 松本真実 森川愛結実
青野真澄 並木円花

○音楽学科 井垣秋桜子 吉浪世華
高橋星那 南野秀人

○文芸学科 天羽夏帆 須藤 綾
謝 雪姣 高野智一

○演劇学科 大面彩瑛 尾口伸子
熱田貴子 梶原 優

○放送学科 大石愛美 佐藤帆波
小島萌寧 森川理央

●芸術学部長賞(学業部門)

○写真学科 小田倉璃菜 本永創太
池上功一 石田 健
渡部直樹

○映画学科 大谷明莉 小林莉菜
久保田大介 吉武 瞳
三代郁也

○美術学科 横原圭亮 尹 貞元
河原崎未貴 坂本春樹
高柳基己

○音楽学科 岩佐椋太 莉込紗樹
井垣秋桜子 高井 亮
長谷川喜春

○文芸学科 安河内瞳 齊藤瑛研
木村鴻介 福山香温
大谷将吾

○演劇学科 大面彩瑛 青木来美
鈴木杏奈 藤田千賀子

○放送学科 大石愛美 中野亮太
佐藤帆波 富永あゆり
中山大暉

○デザイン学科 佐藤 茜 宇佐美晶子
加藤弦哉 柴田芽維
秦泉寺沙紀

●芸術学部長賞(学術・文化部門)

○文芸学科 竹内一希

●芸術学部長賞(その他部門)

○デザイン学科 赤澤理姿

○写真学科 高岡辰吾

●芸術学部奨励賞

○写真学科 村井晴奈

○映画学科 鈴木 歩

○美術学科 青野真澄

○音楽学科 磯部愛実

○文芸学科 中西 強

○演劇学科 川口紗貴子

○放送学科 板谷 洋

○デザイン学科 山下真穂

学科ニュース

写真ブロック



●「出て来い新人5—日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展」(10月11日~10月17日)をニコソロンbis新宿で開催しました。出品者は4年生の池上功一、石田健、金井めい子、古賀一樹、下川成、高岡辰伍、福原歩、山田貴史(五十音順)です。
●平成30年度「総合大学の理想像をめざす日本大学」のメイン写真のコ

ンテストで、関口拓真(2年)の「世界」が最優秀賞となり、誌面を飾ることとなりました。優秀賞には黒沢夏実「colorful」(4年)、渡邊浩史「空へ続く路」(3年)、学務部長賞には松井友輝「輝く明日のために」(2年)が選出されました。

●平成28年度芸術祭展示作品の中から写真学科奨励賞が安藤すみれ(3年)「夜の散歩道」、金成津(3年)「SHRED HUMANITY」、石田健(4年)「TOMORROW WORLD」、本永創太(4年)「B」に授与されました。また写真学科卒業生の会・新写真派協会から新写真派協会賞が下山真輝(3年)

「鯉」に授与されました。

●後期は10月を中心に下記のとおり特別講義が多数行われました。
・10月3日は所沢校舎で、10月5日は江古田校舎で日本大学客員教授の宮嶋茂樹先生(昭和58年度卒)により「不肖・宮嶋写真展『70年』について語る」と題する特別講義が行われました。同じタイトルでしたが、1、2年生は撮影技術や歴史の話を中心に、3、4年生にはコンセプトを中心とした講義となりました。両日とも撮影時の装備を実際に見せ、デジタル化で変わってきた点についての話も伺いました。最後は記念撮影を

して終了となりました。

・10月14日に江古田校舎で、光をテーマに作品制作を続けている片桐飛鳥氏(平成5年度卒)による「創作の秘密-インスピレーションはどこから来るのか? [Photographと光]の考察」というタイトルで特別講義が行われました。インスピレーションを受けるための日常的な創作姿勢についてが伺えました。

・10月17日に江古田校舎で、ヴァージニア大学アート部門教授で写真家のウィリアム・ウィリー(William Wylie)氏が日本での写真展にあわせて来日され、「外観に表れる時(Time as Surface)」というタイトルで自作のコンセプトを語る特別講義が行われました。

・10月18日に江古田校舎で、カメラ技術解説家の水口淳氏による「デジタルカメラの画づくり-きれいな写真を撮るためにカメラがやっていること・カメラのしくみ-」という特別講義が行われました。画質をよくするためにデジタルカメラが内部でどのような働きをしているかについての講義を伺いました。

・10月25日に所沢校舎で鹿野貴司氏により日本最少人口の町・早川町の全住人を撮影したプロジェクトを中心に写真の記録性についての特別講義が行われました。

・12月9日に江古田校舎で田附勝氏により木村伊兵衛賞受賞作品「東北」を中心に作家活動、写真集製作の実際についてを写真編集の視点から語って頂く特別講義が行われました。

●ライカ大丸東京店からの協力により、1月14日に江古田校舎で「LEICA PHOTO SEMINAR ライカMモノクローム タッチ&トライセミナー」を開催しました。国内にあるデモ機をすべてを集め、午前の部、午後の部で各4名の学生が撮影からプリン

トまでを行いライカを肌で感じる体験をしました。

●オリジナルプリント展「Life-animals & birds-」を芸術資料館(11月1日～12月2日)で行いました。国内外23名の写真家が撮影した動物や鳥の写真53点を展示しました。この企画にあわせて同時開催で「Animals in motion by Eadweard Muybridge」展を写真ギャラリーで行いました。

●写真学科の教育の基礎を築かれた初代写真学科主任の金丸重嶺先生の没後40年を記念して「写真家金丸重嶺 新興写真の時代1926-1945」展(2月18日～3月3日)を鳥海早喜専任講師(平成18年度卒)が中心となり若手教員の協力のもと開催しました。ネガからのニュープリントを含む多くの写真や、未公開資料などが展示されました。会期中には多数の卒業生にご来場いただきました。ありがとうございました。

●卒業制作の中から金丸重嶺賞が飯山福子「in the mood」、澤田康平「被災国道 今そこにある危機」、大日方詩梨花「僕らが海峡を渡る時」に決まりました。その他の賞については「学部ニュース」のページをご覧ください。

●池袋WACCAで10月22日から30日に展示希望の学生の作品から選抜した作品により「NICHIGEI PHOTO in WACCA Vol.4」を下記のとおり行いました。4階のギャラリースペースでは1年生の石田真緒「私の見た「いま」の池袋」、館内壁面では2年生の重岡あすかが「パンダの休日」展示を行いました。

●「2017卒展」が3月12日～3月19日に日本大学芸術学部江古田校舎東棟1～3階各展示スペース及び芸術資料館で行われました。展示作品の中から有安杏果「心の旋律」、金井めい子「生誕」、下川成「Live with Nature」、福原歩「脈」に写真学科奨励賞を授与

しました。また渡部直樹「それぞれの『戦争』」には新写真派協会賞が授与されました。

●練馬区健康推進課と日本大学芸術学部写真学科・デザイン学科による官学連携プロジェクトとして乳がん月間 ポスター展「乳がん、ひと、想い」を練馬区役所本庁舎1階およびアトリウム2階通路掲示板、練馬区内6カ所の保健相談所で10月1日～31日まで開催しました。また芸術学部江古田校舎のアートギャラリーにおいても10月1日～15日に同展を行いました。このポスターは、写真学科の3年生8名が撮影した写真をデザイン学科学生がポスターに仕上げました。同時開催で、写真学科展示ホールにてポスターに使用したオリジナル写真展を開催しました。参加した写真学科学生は石塚真穂子、掛祥葉子、片岡誠、金成津、黒澤亜由美、比地原衣里子、溝上佳蓮、森紗英子です。

●今年で6回目となる「日本大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展」(2月21日～2月27日)が新宿ニコンサロンで開催されました。今回より「卒業制作展2017」の企画で写真学校8校が参加し、その最初の1週間を他の3校と合同での展示となりました。また本年から、卒業制作から新たに展示用作品を制作し、展示しました。出品者は展示希望者を公募し、審査により決定しました。出品者は小田倉璃葉「容」、澤田康平「被災国道 今そこにある危機」、本永創太「青の肖像」、松本亘平「虚空感星」、山田貴史「CHANGE」、渡部直樹「それぞれの『戦争』」の6名です。

●池袋WACCAで3月21日から3月26日に展示希望の学生の作品から選抜した作品により「NICHIGEI PHOTO in WACCA Vol.5」として4階ギャラリーで2年生の山田凌による「DEPARTURE」を展示しました。

●3月29日に江古田校舎で開催された「白鳥真太郎セミナー」(共同組合日本写真館協会主催、日本大学芸術学部写真学科、他、協力)にあわせて、写真学科ギャラリーで、3月22日から4月7日まで「白鳥真太郎写真展」を行いました。

●平成28年度をもって小泉定弘先生(昭和41年度卒)が定年を迎えられ、畑中章宏先生と共に写真学科を退職されました。

●後期より、前主任の高橋則英教授(昭和52年度卒)が芸術学部次長に就任し、後任として西垣仁美教授(昭和58年度卒)が主任となりました。

映画ブロック



●平成28年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

- ☆第44回渡辺俊平記念賞(映像表現・理論)田畝裕介
- ☆第19回菅見有弘賞(映像表現・理論)田中沙子
- ☆第10回大竹徹賞(映像表現・理論)畑橋悠人
- ☆第11回八木信忠賞(録音)井沢佳世
- ☆第41回映画学科奨励賞(映像表現・理論)柴崎雄介、江田明里、鍋田啓佑、(監督)志萱大輔、(撮影)木村和豊、(録音)平野麻衣子、(演技)藤井草馬
- ☆第26回映画学科選奨(映像表現・理論)丸山雄也、伊澤彩織、梶月彩、(監督)名久井晨、(撮影)小倉和樹、(録音)荒川翔太郎、(演技)古矢航之介

●4月5日から4月21日まで「平成28年度写真学科学生選抜作品展」を日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館で開催しました。この写真展は、対象を平成28年度の1年生から3年生までとし、展示を希望する学生のポートフォリオから選抜した11名によるものでした。

●4月11日から4月28日まで写真学科ギャラリーで写真学科特別企画小泉定弘先生退職記念写真展「浦安-東京ディズニーランドが出来る前-」を開催しました。

●5月9日から6月16日まで日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館

- ☆第24回映画学科特別賞(報映産業提供)(映像表現・理論)濱野愛美、内沼菜摘、齋藤響、(監督)本木錬史、(撮影)横田早紀、(録音)佐藤はるか、(演技)田中萌亞名
- ☆第14回東芝ライテック・アートライティング賞(撮影)鈴木隆造〔照明にたいして〕
- ☆第16回映画学科コダック賞(監督)志筑司、(撮影)金根志、石井千秋(録音)綿貫花奈、翠早稀、(演技)忠美旬子、岡延明、田浦健太郎
- ☆第2回三善賞〔(株)三善提供〕(演技)松田真織

- 以下の各賞が、映画演出Ⅲ・技術Ⅲ・総合制作演習Ⅱに授与されました。
- ☆江戸クリエイト賞(監督)日柄祐美子、武石昂大、赤石真菜
- ☆三善賞(演技)石田七海
- ☆映画学科コダック賞(撮影)岩淵旭、後藤美月、清水大河、初野百花、(録音)錦織舞、渡部末佳

でオリジナルプリント展「L'Esprit Français-フランスの写真家たち」を開催します。ご覧いただければ幸いです。

●5月25日から5月31日まで選抜された2年生から4年生までの5名の学生による写真展「GRIP 学生選抜作品展」をポートレートギャラリーで開催します。ご覧いただければ幸いです。

●写真展および直近情報等の詳細は日本大学芸術学部ホームページ、写真学科公式Facebook/Twitterをご覧ください。

- ☆映画学科特別賞(撮影)北原奈歩、(録音)島田実里、佐藤博貴
- ☆アトライティング賞(撮影)業天大和

●平成29年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。宇田充講師(映画ビジネスⅡ)、大寺真輔講師(外国映画史Ⅳ)、木原圭翔講師(映画理論基礎)、高橋論治講師(映画批評演習・63年度卒)、千葉実講師(映画特講Ⅶ・62年度卒)、谷川創早(映画技術Ⅰ・58年度卒)、中島美緒(映画技術Ⅱ・H9年度卒)

●平成28年度をもちまして、次の先生方が映画学科を退職されます。映画学科発展にご尽力いただきありがとうございました。渡辺祥子講師、上杉健講師、阪本善尚講師(大学院は継続して講座を担当します)、中川洋吉、仲倉重郎(大学院は継続して講座を担当します)、山田顕喜(大学院は継続して講座を担当します)、上田学講師、志村三代子講師、小澤秀高講師、仁井田千絵講師、土田政明講師

美術ブロック



★第13回 浜松市美術館版画大賞展
において鶴巻貴子(H17年度修了)が
《ROUGE et..》銅版画で大賞を受賞
しました。

第13回 浜松市美術館版画大賞展
会期:2月28日～3月26日
会場:浜松市美術館(静岡県浜松市中
区松城町100-1)



★平成28年11月、第1回、日本大学芸術
学部美術学科主催高校生自画像(付
属高校)デッサンコンクールが開催さ

音楽ブロック



●平成28年度 卒業論文要旨発表会
平成29年3月23日(木)江古田校舎・
東棟6階音楽小ホールに於いて、卒業
論文が優秀であった学生による卒業
論文要旨発表会が開催されました。
発表者は次の通りでした。

<理論コース>
井垣秋桜子、朝倉由香利
<音楽教育コース>
林美祐紀、吉浪世華、高井亮
<情報音楽コース>
尾崎里穂、磯部愛実

●平成28年度 卒業演奏会
平成29年3月23日(木)練馬文化セン

れました。多数の応募作品の中から、
以下の受賞者が決定されました。
<大賞>細川京佳(長崎日本大学高
等学校)、<優秀賞>吉野天斗佳(長
崎日本大学高等学校)
<特別賞>入江徳俊(長崎日本大学
高等学校)
<学校賞>角田茉優(日本大学櫻丘
高等学校)、吉田桜(日本大学藤沢高
等学校)、江口莉子(日本大学豊山女
子高等学校)、伊賀さな(日本大学三
島高等学校)、布川真子(日本大学山
形高等学校)、小塩晴太郎(日本大学
習志野高等学校)、郡司恵那(日本大
学東北高等学校)、川瀬麻楠(大
垣日本大学高等学校)、井又ほのか
(土浦日本大学中等教育学校)、櫻翔
真(宮崎日本大学高等学校)、藤原紗
南(長崎日本大学高等学校)<佳作>
菊地春香(日本大学櫻丘高等学校)、
中村寿珠(日本大学藤沢高等学校)、
本嶋佑香(日本大学豊山女子高等学
校)、飯塚美樹、武藤陽香(日本大学
三島高等学校)、須藤真理乃(日本大
学山形高等学校)、玉置業紗(日本大
学習志野高等学校)、大久保璃空(土浦

ター・小ホールに於いて、卒業演奏
及び卒業作品で優秀であった学生の
出演する卒業演奏会が開催されまし
た。出演者は次の通りでした。
<作曲コース>
松本真結子(作品発表)
<声楽コース>
莉込紗樹(ソプラノ)、楠本真未(ソプ
ラノ)、金子瑞季(ソプラノ)、千田美
佳(ソプラノ)、寺澤裕子(ソプラノ)
<ピアノコース>
岩佐椋太、田中千夏子、福嶋碧菜、守
谷玲那、村國百香、矢野梨来
<弦管打楽コース>
長谷川喜春(オーボエ)、村野詩穂
(チューバ)、高武美月(クラリネット)、
白鳥真有(サクソフォン)、及川
竜平(打楽器)、川崎萌菜(フルート)
●日本ピアノ調律師協会主催 第18
回新人演奏会 東京文化会館・小ホール

日本大学中等教育学校)、加藤臣哉、
川内萌、長谷川華子、盛田ほのか(宮
崎日本大学高等学校)、後田美咲、大
口愛実、岡美佑、尾崎華菜、嵩下桃子、
中村美紘、野口亜香里(長崎日本大
学高等学校)
★第12回タグボートアワード
内山翔二郎(H21年度修了)が入選し
ました。
■飯田竜太展
会期:4月15日～6月30日
会場:八戸ブックセンター
飯田竜太専任講師の個展
■笹井祐子展
会期:7月19日～29日
会場:ギャラリーf分の1
笹井祐子教授の個展
■版17展 2017
会期:9月25日～10月6日
会場:INOAC銀座ギャラリー
五島三子男(47年度卒)、笹井祐子教
授が出品
■内山 翔二郎 展
会期:9月20日～9月29日
会場:サロン・ド・エス
内山 翔二郎(H21年度修了)の個展

平成29年4月29日(土) 17:00開演
ピアノ独奏 岩佐椋太
●サクソフォン協会新人演奏会
平成29年5月3日(水)川崎市高津市民
館ノクティールホール
サクソフォン独奏 白鳥真有
●第87回 読売新聞主催新人演奏会
東京文化会館・大ホール
平成29年5月4日(木・祝)・5日(金・祝)
ソプラノ独唱 莉込紗樹
ピアノ伴奏 田中千夏子
作品発表 松本真結子
ピアノ独奏 福嶋碧菜
ピアノ独奏 岩佐椋太
チューバ独奏 村野詩穂
ピアノ伴奏 守谷玲那
●ヤマハ管楽器新人演奏会
平成29年6月4日(日) 第21回木管楽
器部門 ヤマハホール
サクソフォン独奏 白鳥真有

平成29年6月5日(月) 第33回金管楽
器部門 ヤマハホール
チューバ独奏 村野詩穂
●ムラマツ・フルートデビューリサイ
タル
平成29年7月4日(火) 東京オペラシ
ティ・リサイタルホール
フルート独奏 川崎萌菜(小リサイ

文芸ブロック



■第54回 宣伝会議賞 グランプリを
卒業生の平山瑞帆さんが受賞!

第54回 宣伝会議賞 グランプリを平
山瑞帆さん(平成24年度文芸学科卒
業)が受賞されました。宣伝会議賞
は、広告表現のアイデアをキャッチ
フレーズまたはCM企画という形で
募集する、50年以上の歴史を持つコ

演劇ブロック



■日芸アートマネジメント会
芸術学部出身者の内、舞台芸術の企
画制作を始めとするアートマネジメ
ントに従事する方々により本年1月
「日芸アートマネジメント会(NAM)」
が発足しました。演劇・イベント等

放送ブロック



□ACC学生CMコンクールで大賞受賞
第29回ACC学生CMコンクールにお
いて、放送学科3年生・山内理実さん
がラジオCM部門の最高賞である大

タルの形で演奏します。)
●平成29年度 音楽学科夏期受験
準備講習会
平成29年7月26日(水)～29日(土)に
開催いたします。校友会員の皆様
のお知り合いを、ぜひご紹介ください。
●平成28年度で退職なさった先生は
次の通りです。

ピーライターの登竜門です。
平山さんは「子どもが苦手なものは
一度揚げてみる。」「(日清オイリオグ
ループ/日清オイリオの食用油を使っ
て、揚げ物をつくって、おいしく食べ
て、元気になる!そんなキャッチフ
レーズ。)」での受賞となりました。

■第1回カクヨムWeb小説コンテス
ト・現代アクション部門大賞を卒業
生のロケット商会さんが受賞。

ロケット商会さん(平成18年度文芸
学科卒・本名非公開)が、小説「勇者
のクズ」でKADOKAWA主催・第1

におけるアートマネジメントについ
ての情報交換や内外の研究活動・交
流を通じて、アートマネジメントを
より良く実践行動することを目的と
しています。本学出身でアートマネ
ジメントに従事していれば、会員の
推薦によりどなたでも参加可能で
す。お問い合わせは事務局nihon.art.m
@gmail.comまで。
■舞踊学会研究奨励賞
舞踊学会平成27年度研究奨励賞に竹
村嘉晃氏(平成6年度演劇学科卒)の

賞を受賞しました。
山内さんの作品は、1,725本の応募が
あった中からの受賞でした。また放
送学科としては昨年度の金賞に引き
続き二年連続の受賞となりました。

□「あてまの森放送局」アートギャ
ラリーで開局
放送学科の実習科目「ラジオ制作Ⅲ」
を受講する学生18名が、新潟県十日

長い間、ありがとうございました。
鈴木茂子先生、渡邊雄介先生
●今年度より次の先生が新たに講座
を担当しております。
齊田晴仁先生、小林純生先生、中西宣
人先生、大槻秀一先生

回カクヨムWeb小説コンテスト・現
代アクション部門の大賞を受賞しま
した。受賞作の「勇者のクズ 1」はカ
ドカワBOOKSより好評発売中です。

■山下聖美先生がNHK Eテレ『100
分 de 名著』に指南役として出演!

山下聖美先生が、Eテレで放送中の
『100分 de 名著』の「宮沢賢治スペ
シャル」に、指南役として出演。第1回
目は、2017年3月6日(月)に放映され
ました。この放映にあわせて、NHK
出版より『100分 de 名著 宮沢賢治
スペシャル』が刊行されています。

著書「神霊を生きること、その世界」
への授賞が決定しました。
■芸術祭舞踊部門表彰
平成28年度文化庁芸術祭舞踊部門に
おいて昭和45年度演劇学科卒業の花
柳園喜輔こと鈴木昭氏が優秀賞を受
賞しました。
■学科主任・専攻主任交代
平成28年9月25日付で演劇学科の主
任に藤崎周平教授、大学院舞台芸術
専攻主任に丸茂美恵子教授が任命さ
れました。

町市当間高原でフィールドレコー
ディングした「音」のイメージから制
作したラジオ番組作品が、2016年11
月12日～18日にかけて、本学部ア
ートギャラリーからミニFMとして放
送されました。
展示スペースでは当間高原で刈り
取ったススキを飾り、鳥や虫といっ
た自然音を再生し、照明の効果も加
えた「サウンドスケープ」が展開さ

れ、早朝のブナ森、かつての棚田の風景を取り戻しつつある水辺のイメージが発信されました。

□「うなぎプラネット」PR

「うなぎプラネット」は、日本大学の総合力を活かし、日本大学全14学部中、9学部の研究者・教員の力を結集したユニークな分野横断型研究グループです。そのプロジェクトの一環として、うなぎの種の保全・うなぎ文化の保全、人とうなぎの共存などをテーマにしたPR動画を、放送学科4年生・角谷耀さん、鈴木康平さん、松村剛雄さん、孔可斌さんがディレクターとなって制作しました。YouTubeで「うなぎプラネットCM」、

facebookでは「うなぎの嘶」を検索してご覧いただけます。

□橋本孝良先生が退官されました
放送学科の専任教員として永年ご活躍された橋本孝良先生が平成28年度をもって退官されました。ラジオ分野を専門にされ、「ラジオ制作」「ラジオ演出論」をご担当されました。音で表現すること、伝えることにこだわりぬく先生から「音のダイナミズム」を学んだ卒業生は多いかと思えます。また、ゼミナールでは番組研究、編成研究、卒業制作…と根気強い指導にあたっていただき、橋本ゼミからはたくさん卒業生がラジオをはじめとする音の現場へ進

んでいきました。学科主任も長い間お務めいただき、特に江古田校舎リニューアルの時期は学科の陣頭立って移転事業を牽引していただくなど、様々な立場から学部・学科の運営にご尽力いただきました。ありがとうございました。そして、本当にお疲れ様でした。これからもお元気でいらしてください。

□訃報

平成17年より12年もの長きに渡って「脚本実習」「放送特殊研究I」を担当された森治美先生が2月6日に肺ガンのためご逝去されました。平成28年度もこの二科目を担当されていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

デザインブロック



■デザイン学科生の活躍

銀座和光のバレンタインディスプレイ
銀座和光のバレンタインデフェアのウィンドウディスプレイで今年もデザイン学科生の作品が1月19日から2月14日まで銀座の街を彩りました。これは総合演習でおこなわれている、専門分野を横断して学ぶプロジェクトとして取り組んだものです。デザインを担当したのは4年の飯塚まり亜さんと村上佳央さんで、テーマは『羽ばたく幸福』。チョコレートのカカオの原産地に生息する赤い鳥を幸福の象徴としてデザインしました。

人権啓発ポスターコンクールにて最優秀賞を受賞

日本大学が主催する人権啓発ポスターコンクールにおいて、3年の山科詩織さんが最優秀賞を受賞しました。これは、日本大学がセクシュアル・ハラスメント等人権侵害のない良好な就学・就業環境を維持向上、

人権侵害の防止・解決に取り組むための一環としておこなわれているポスターコンクールです。応募対象者は、日本大学在校生、日本大学附属高校生、中学生で、今年190点の応募がありました。最優秀賞の山科さんの作品は今年1年間、人権啓発ポスターとして、日本大学本部、各学部、附属高校、中学校に配布されます。入賞者は次のとおりです。
最優秀賞(大学生の部) 山科詩織さん
優秀賞 萩原黎菜さん
優秀賞 山川ひとみさん
特別賞 安江祐奈さん
(いずれもデザイン学科3年)

ACジャパン学生広告賞で多数の学生が入賞

公益社団法人ACジャパンが主催するACジャパン学生広告賞でデザイン学科から多数の学生が入賞しました。ACジャパンCM学生賞からACジャパン広告学生賞に名前を変え、従来からあった「テレビCM部門」に「新聞広告部門」が新設されました。この賞は ACジャパン会員校(大学、大学院、専門学校)の学生を対象として未発表のオリジナルCMと新聞広告を制作するというものです。テーマは「公共問題」で、学生が様々な視

点で切り口を探し制作しました。その結果、多数の入賞者を輩出することができました。

○審査委員特別賞

萩原黎菜さん(デザイン学科3年)

○優秀賞

長島彩香さん、田中希実さん、浅賀日菜子さん、佐島実紗さん、井波彩さん(以上デザイン学科4年)、植田百絵さん(デザイン学科3年)

○奨励賞

足助美樹さん(デザイン学科4年)、大和田なるみさん、清水沙羅さん(以上デザイン学科3年)

○テレビCM部門 優秀賞

『不満のメダボ』

小林由里子さん(代表)、井波彩さん、長谷川詩織さん、吉野夏帆さん、乃坂夏美さん、剣持弥生さん、佐野千恵さん、西尾百花さん、佐島実紗さん、浅賀日菜子さん、大野瑛里加さん(以上デザイン学科4年)、大谷高弘さん(デザイン学科H28年度卒業)、林沙織さん(音楽学科)

※グループによる受賞

■デザイン学科の卒業生の活躍

JAGDA新人賞を卒業生が受賞
社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)が主催する

「Graphic Design in Japan 2017」において、玉置太一さん(2006年度卒)がJAGDA新人賞を受賞しました。この賞は、優秀な若手デザイナーをクローズアップし、デザイン界の活性化を図るためのものです。毎年、会員作品集出品者の中から、今後の活躍が期待される有望なグラフィックデザイナー(毎年10月31日時点で39

歳以下のJAGDA正会員が対象)数名に授与されているものです。

■デザイン学科ホームカミングデーを開催

恒例となっている同交流会がホームカミングデーと名を改め、3月18日(土)に江古田校舎の学食にて大勢の卒業生を迎え盛大に行われました。

これは卒業制作展の一環として、その期間中に毎年開催されているものです。OB・OGから学生時代の思い出話や学生に向けたメッセージあり、学生から卒業生へは仕事や就職などについての質問あり、軽い食事と飲み物を取りながら今年も盛会のうちに終了しました。



平成29年3月31日をもって校友会事務局員、北嶋留美子さんが定年退職されました。25年間にわたり、校友会を取りまとめてらっしゃいました。長い間ありがとうございました!

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。
(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。宮城県登米市・石ノ森章太郎ふるさと記念館で開催の「SHOTARO SQUARE」展の設営をしました。ぜひ、足をお運びください。

【会期:4月22日(土)~7月2日(日)】

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

http://www.my1973.com

design:スタジオ・マイ

編集後記

昨年は映画『君の名は。』の桁外れな快進撃が記憶に残る年になりましたが、映画学科出身の片渕須直監督による『この世界の片隅に』のヒットもまた、クラウドファンディングによる支援が成功への足がかりとなった好例として歴史に残ることでしょう。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部

日本大学芸術学部校友会報・第98号

2017年春季号●平成29年5月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
茅原良平 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会

東京都練馬区旭丘 2-4-2-1

日本大学芸術学部に

電話 (03) 3554-5363

事務担当 星野 祥子

●印刷所 江戸クリエート株式会社

東京都文京区本郷 3-43-16

コア本郷ビル

電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙

平成28年度写真学科卒業制作

氏名:松本巨平

タイトル:虚空惑星

英訳: Nihilistic Planet